

特集

コンクリートGX

News

- 釜石市民体育館、施工ミスが招いたボルト破断
- 石川地震で珠洲市内の住宅468棟に被害

先読みコスト&プライス

2024年に労働力需給が逼迫する恐れ

米国建築ウォッチ

「全性別トイレ」の現実解

実例に学ぶ防耐火の勘所

準延焼防止建築物を木の現して

Cover Photo

東急歌舞伎町
タワー

(東京都新宿区)

フォーカス建築より



AI時代にこそ手仕事は糧に

世界遺産の建築を実測して図面を起こし、自ら建てる。原寸レプリカ制作で浮き彫りになった、AI（人工知能）時代の産業の担い手に必要な技能とは。ものづくりを教える著者2人に聞いた。（聞き手は谷口りえ）

——原寸レプリカをつくったきっかけを教えてください。

八代 ものづくり大学の理論と実技を融合した教育を世界にアピールする目的で、2010年に故神本武征元学長がプロジェクトを立ち上げました。その一環で、ル・コルビュジエが設計した「カップ・マルタンの休暇小屋（キャバノン）」の原寸レプリカを制作して学内に常設展示する、この企画が採択されました。

建設と製造（現情報メカトロニクス）の両学科から有志が集まり、家具からネジ1本に至るまで丸ごと再現しています。作製した図面は計220枚に上ります。

藤原 再現して分かったことは、コルビュジエのものづくりの奥深さですね。長時間、内部空間に身を置いて、変化する光や手に触れる細部の柔らかさなどを体感すると、徹底して計算



藤原成暁（ふじわらなりあき）氏（右）
ものづくり大学名誉教授

1953年東京都生まれ。武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業後、建築設計事務所を経て、90年に藤原成暁設計室を設立。2019年からものづくり大学名誉教授（写真：本誌）

八代克彦（やしらかつひこ）氏（左）
ものづくり大学名誉教授

1957年群馬県生まれ。東京工業大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了後、中国・西安冶金建築学院（現西安建築科技大学）に留学。2023年からものづくり大学名誉教授

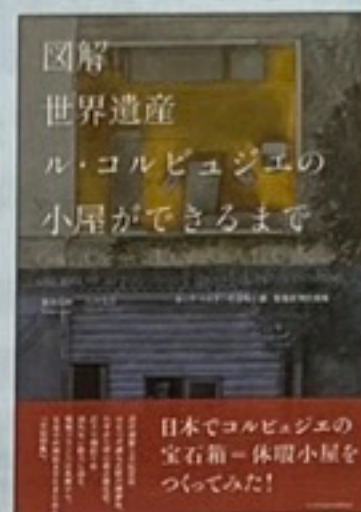
していることが分かる。コルビュジエが意図したことに思いを巡らせると、空間への考察は尽きません。

23年度からは、学部1年生の製図の授業で本書を教科書、原寸レプリカを教材として活用する予定です。写図をする際に現物と見比べ、どうつくられているのかを考えながら手を動かすことは、とても重要です。

——このプロジェクトを通して学生たちに伝えたかったことは何ですか。

藤原 AI（人工知能）による自動生成が進化しても、人間の手仕事はゼロにはなりません。作り手を目指すのであれば、手と足と頭を使って実

Book Data



図解 世界遺産 ル・コルビュジエの 小屋ができるまで

- 著者：藤原成暁、八代克彦
- 出版社：エクスナレッジ
- 定価：2860円（税込み）
- ページ数：264ページ
- 発行日：2023年3月2日

際にもものをつくるという経験が必ず生きてくる。通るべき大事な道だと思います。書籍化は10年がかりになりましたが、今の時代にこそ訴えるべき内容があると考えています。

八代 手仕事を積み上げて、時間に耐え得るものをつくる文化が、揺らいでいると感じます。例えば衣料品のマテリアルや縫製がそうですし、建築でも起こっている問題です。

産業の空洞化や建設DX（デジタルトランスフォーメーション）が進む中で、リアルなものづくりは誰が担うのか。ゼロからの成り立ちを知ることが、新しい道具を使うための糧にもなるはずです。

藤原 一番重要なのは、人間が「考えること」をやめないということです。AIが進化する時代だからこそ、考える時間を惜しまず、「本物のものづくり」と向き合ってほしいと思います。

